



新消防庁舎建設 基本設計と実施設計を どちらも令和3年度内に実施

災害対応の拠点となる新消防庁舎建設に関して、令和3年度予算においては、基本・実施設計委託料として1億2083万5000円、測量設計委託料として940万円、工作物等移転補償費として1764万2000円が計上されています。

令和2年6月の消防庁舎検討委員会にて候補地（川端町地内）が決定し、7月の議会全員協議会において説明がなされた新消防庁舎整備事業が令和3年度予算に計上されました。

予算審議の中では、「基本設計と実施設計の予算が一緒に計上されているのに疑問を感じる」、「合併特例債の期限、令和6年度までに完成させねばの思いが強いのではないか」、「特例債は有利といえども借金なのでしっかりと検討をお願いします」といった意見が出されました。

執行部からは、「事業を進めていく手法において理解をいただくのに少し足りなかった面はあるかもしれないが、合併特例債の終期をにらんで事業を進めていきたいと考えている」との答弁がありました。

動き出した新消防庁舎 今後のスケジュールはどうなるのか

新消防庁舎は大災害時でも消防機能を発揮できるのか

岡山県が新たに作成した防災計画は、千年に一度レベルでの浸水を想定したのになつていきます。この規模の災害では、市役所の庁舎が約20メートルも浸水する想定になっていますが、これほどの災害に対応することは、ほぼ不可能であるとの答弁でした。

新消防庁舎の建設予定地は、新しいハザードマップによると、一部が土砂災害警戒区域に入っており、また数10センチの浸水が想定されていますが、基本設計において対応が検討されます。このことを懸念する声については、「新消防庁舎は強固な建物なので、消防機能が失われることはない」という答弁がありました。



新消防庁舎建設予定地

基本設計 法律に基づいてデザインなどを決める大まかな設計
実施設計 細部まで詳細に決めていく、実際の作業に使用する設計



新型コロナウイルス感染症 令和3年度予算でも 予防と経済の両立を目指す

いまだ猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。3月議会で審議された令和2年度補正予算と令和3年度予算の中から、新型コロナウイルス感染症に関する予算審議を取り上げます。

キャッシュレス決済ポイント還元事業や ワクチン事業に多くの質問

新型コロナウイルス感染症による景気の後退は市財政にも影響を与えており、令和3年度予算では地方に配分される消費税や、観光施設への入場料減といった数字に表れています。逆に令和2年度補正予算に計上された「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」2億1500万円など国からの支援による増額もあり、限られた財源の中で、いかに市民生活への影響を少なくするかを試行錯誤しつつ、さまざまな事業が執行、または予定されています。

令和2年度補正予算の質疑では、売りに影響を受けた中小企業への支援金である「中小企業等事業継続支援金」の2400万円が使われなかった理由について質疑があり「売り上げが20%以上減少した事業者への交付を想定していたが、収益が減少した事業者が予想よりも少なかった」という答弁がありました。

令和3年度予算には、新型コロナウイルスワクチン接種や、学校や文化施設の防疫に関する予算が計上されています。同時に、「キャッシュレス決済ポイント還元事業」に1億円が充てられます。「この事業については、近隣市とかぶらない日程で実施を考えている。また、もし期間内に予算を使い切った場合には、国の新型コロナウイルス対策費を利用し、補正予算で対応する」という答弁がありました。議員からは、参加する事業者に対して、多くの営業の電話がかかってくるなど、店が迷惑するようになりしつ制度設計を願うという要望がありました。

令和2年度補正予算	
歳入	「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」 2億 1527万 3000円
歳出	「指定管理施設事業者支援金」 2175万円 <small>新型コロナの影響で施設運営に影響を受けた指定管理事業者への支援金</small>
歳出	「教育用備品購入費」 5484万 3000円 <small>小・中学校に新型コロナ対策の備品を購入</small>
令和3年度一般会計予算	
歳入	「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」 1億 9454万 5000円
歳入	「新型コロナウイルスワクチン接種委託料」 1億 5117万 9000円
歳入	「新型コロナウイルスワクチン接種者移動支援委託料」 1000万円
歳出	「キャッシュレス決済ポイント還元事業」 1億円
歳出	「マイナンバーカード普及促進事業」 3010万円

主な新型コロナウイルス感染症関連予算